


長崎北病院 伝言板 6月号

令和6年6月1日発行

6月。雨の季節、梅雨到来。しばらくはジメジメが続きます。6月に結婚式を挙げる花嫁を「ジューン・ブライド」(June bride: 6月の花嫁)と呼び、幸せになれるという。ヨーロッパの6月は冬が明けて花が咲き始める良い季節。ところが日本は梅雨。ジメジメして暗い6月に結婚する人は少ない。困ったブライダル業界が1970年頃に始めたキャンペーンだそうです。なんだかな。



SFTS (重症熱性血小板減少症候群)

梅雨の雨といえば、シトシトと降るイメージ。しかし最近の雨は大雨、洪水、土砂崩れ。亜熱帯のスコールのような雨です。以前は梅雨末期に大雨が多かったようですが、最近は梅雨の早い時期から線状降水帯が度々発生し、あちこちで被害が出ます。ちなみに、1982年の長崎大水害。線状降水帯という言葉はありませんでしたが、おそらくそうだったでしょう。299名が亡くなった大災害でした。この時、長与町役場で観測された1時間雨量187mmはいまだに残る日本記録です。破られていません。それほどの大雨がほぼ一日中降りました。昨今はこのクラスの大雨が毎年各地を襲います。さらに、昨年は猛暑の夏もありました。異常気象。そのためか、今年はどこも梅が不作で梅干しも漬けられないと言う声。さくらんぼも変形した実が多いそうです。長崎ではSFTS(重症熱性血小板減少症候群)が過去最高のペースで発症しています。イノシシなどに寄生しているSFTSウィルスを持った「マダニ」に人が刺されることで感染します。発熱、嘔吐、頭痛、精神症状などが

起こります。死亡率は30%とも言われる重篤な病気です。当院でも今年すでに一例経験しています。畑や野山に行く時は長袖、長ズボンを着用し肌を出さない事。野山、畑から帰ったらダニが食いついていないかチェックしましょう。虫除けスプレーも有効のようですが過信は禁物です。皮膚に食いついているマダニを見つけたら、潰したり引っ張ったりせず、病院でとってもらいましょう。最近ではSFTSにかかった「ネコ」から人に感染した報告もあります。弱った動物に触れないことも肝要。このSFTSという病気は2011年に中国で報告され、日本では2013年に初めて確認されました。当院では同じような症状の患者さんを2005年に経験していました。ウィルス感染を疑いましたが、当時の医学レベルでは診断が付きませんでした。将来のためにとその血液を保存していました。日本でSFTSが発表されてから、すぐに国立感染症研究所に血液を送って調べてもらったところ、その血液からSFTSウィルスが見つかりました。少なくとも中国、日本で発表されるよりずっと前、2005年にはSFTSウィルスは日本にいたことがわかりました。確認された日本最古、世界最古のSFTS症例は当院の症例と確認されました。わからない病気、症状も医学が進歩すればわかるようになる。心に留めておくことが大切。今はわからない、治療が困難な病気もいつかは何とかなる、何とかする。その気持ちが必要です。



しばらくは静かだったコロナもまた増えています。最近、発熱でこられてもコロナ陰性の報告が続きましたが、最近「コロナ陽性です」の報告が増えてきました。退院や転院時に検査をしない病院がほとんどですので、当院への転院、入院時にコロナ感染が判明することも出てきました。病院に入り込むと患者さん、職員に広がります。気を引き締めています。天候、国際化、環境などで病気もかわります。災害は忘れた頃にやってきます。忘れないように。(A.S.)